

出前講義演題メニュー

Ⅱ 海洋生産管理学科

1 『関門海峡の今と昔 ー関門海峡の変化を昔の海図から見ようー』 (担当：酒出)

関門海峡は、昔から多くの船が行き交い、また、小型漁船の操業も盛んな海峡です。また、関門海峡と下関や北九州の発展には、深い関係があります。

関門海峡の海の様子、海岸付近の下関と北九州の様子は、今と昔ではどのように変わってきたのでしょうか？

明治時代、大正時代、昭和時代から現在に至るまでの関門海峡の海図や参考資料を見比べながら、関門海峡、下関や北九州の変遷について紹介します。

2 『これからの魚のとりのり方』 (担当：永松)

漁業が抱える問題点を紹介するとともに、持続的海洋生産に対応した漁具・漁法のあり方を解説します。また、最新の漁業技術を豊富な写真、動画を使用して解りやすく紹介します。

3 『音で見る海の世界』 (担当：中村)

海の中では、私たちの耳には聞こえない超音波という高い周波数の「音」が大活躍です。イルカやクジラたちはこの超音波を自由自在に使って海の中を見えています。私たちも、魚がどのくらいいるのか。また海底の形状は？さらに底質は？ということはこの超音波を使って調べることができます。

音は聞くものではなく、見るものだということを実感し、超音波を通して見る「海の世界」はどのようなものか紹介します。

4 『日本から流れた海ゴミの移動』 (担当：嶋田)

プラスチックの破片から壊れた漁具・小型船までいろいろな大きさの漂流物(海ゴミ)が海上あるいは海岸で見かけることがあります。これらの漂流物の一部は海の生き物だけでなく、私たちの社会に影響を与えることがあります。講義では、実際の漂流物を見て触ってもらいながら、日本から流れた海ゴミがどこへ行くのかを話し、海洋環境問題について考えてもらいます。

5 『外洋の海と空』 (担当：柏野)

皆さんは 360 度、陸が見えない外洋の海に出たことはありますか？そこは海と空しかない世界で、まさに自然が手つかずで残されています。そこで見られる海と空の美しさと様々な現象について、写真を交えてお話しいたします。

6 『意外に知らないイカの話』 (担当：若林)

イカの女王と呼ばれるおいしいケンサキイカ、最近とれなくなったスルメイカ、赤い悪魔と呼ばれるアメリカオオアカイカ。イカは日本人にとって身近な水産物ですが、実は知らないことがたくさんあります。どんなイカがいるのか、イカはどこから来るのか、なぜスルメイカがとれなくなったかなど、様々な角度からイカについて紹介します。

7 『イカ釣り漁船と海洋環境』 (担当：嶋田)

対馬海峡ではイカ釣り漁が盛んであり、そのために集魚灯（照明）を用います。2018 年 12 月において「漁業法等の一部を改正する等の法律」が公布され、今後、水産資源管理はより重要になると予想されます。その一環としてイカ釣り漁船の動きを調べることは有効な水産資源管理方法の 1 つと考えられます。講義では、夜間光衛星画像で示されたイカ釣り漁船の動きと海洋環境について話し、水産資源管理について考えてもらいます。